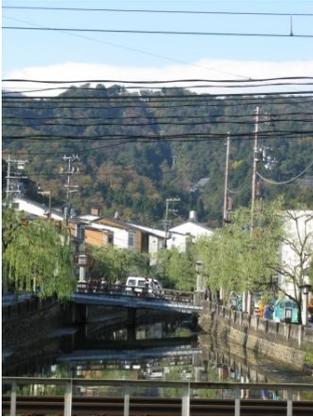


平成27年度「きのさき見て歩き」第5回開催しました

11月28日（土）、「きのさき見て歩き」第5回を開催しました。今回は「大師山八十八カ所めぐり」で、札所1番の四所神社を出発し、温泉寺、大師山山頂、札所八十八番の弁天山麓までをめぐりました。



札所石1番

千鳥橋から温泉寺、大師山山頂をながめる湯島の西方にあたることから、大師山八十八カ所の石仏は西方浄土を意識して巡礼された。

<四所神社>

八十八カ所めぐりの出発点。約200年前に、湯治で長期にわたって滞在する人々の信仰の道として温泉寺、極楽寺、中世院住職によって八十八カ所めぐりが造成された。

<温泉寺本堂 札所石十九番>

懸魚
(げぎよ)



入母屋造り 銅板葺き



斗共 (お椀のような形をしたところ)
同様のものの椀を伏せた形が蕨股 (かえるまた)



木鼻 (きばな)

天竺様

<温泉寺多宝塔> 札所石二十一、二十二番



波や鳥を象った蕨股 (かえるまた) の見事な彫刻



<温泉寺宝篋印塔（ほうきょういんとう）>

温泉寺境内の多宝塔の左手にある花崗岩製の塔。花卉の飾りの開き具合で作られた時代がわかる。
 この塔は鎌倉時代末期の造立といわれている。年代が新しくなるにつれ、花卉の飾りが外に開いた形になっている。



<龍照師の指頭文字による南無阿弥陀仏>

龍照師（大正三年入寺）が指で書いたという「南無阿弥陀仏」の文字が刻まれている。骸骨のように見えるのがその文字。
 大正十二年に城崎を訪れた有島武郎が、度々龍照師を訪ねて行ったといわれている。城崎を去ること1か月後、有島は女性記者と軽井沢で心中した。



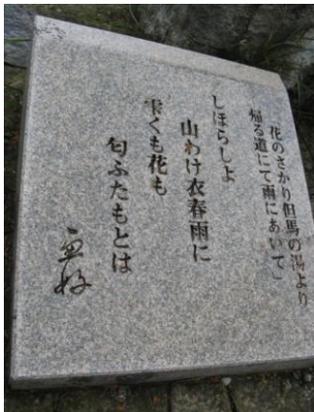
ロープウェイで大師山山頂・温泉寺奥の院へ



大師山山頂からの展望



石仏（三十一番から三十三番がある）



<吉田兼好の歌碑>

室町時代初期に「花のさかり但馬の湯より帰る道にて雨にあいて」として兼好法師歌集におさめられている。「しほらしよ山わけ衣春雨に霽くも花も匂ふたもとは」「しほらしよ」は「しぼらじよ」=しぼらないでおこうの意味。

ロープウェイで下山

故郷の発展を願いロープウェイ建設を提案した太田垣士郎の資料館を見学。



下山後、終点八十八番目の石仏打留大師（弁天山麓）へ。

今回の「見て歩き」は、大師山八十八カ所めぐりの全行程を歩く予定でしたが、道が滑りやすいことや、今年は熊の出没情報が多いことなどから予定を変更して、ロープウェイを使用し、山中の工程を省略して温泉寺周辺の文化財等を詳しく見ていく内容となりました。

四所神社では、秋祭りの話などもお聞きし、城崎の祭りのもつストーリーや、町の人々の祭りへの熱い思いを知りました。城崎の寺社が今もなお人々の生活と深く関わり、地域の文化が形成、継承されていることにあらためて感動しました。

温泉寺は前回も行きましたが、今回はその建築様式などを詳しく説明していただき、特に多宝塔の美しい彫刻や構造には目を奪われました。前は歴史やいわれなどを見て歩くだけで精いっぱいでしたが、再度訪れることで、建物の美しさやそこに込められた信仰などを感じることができました。